

## アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）平成 27 年度教育研究報告書

<b>事業課題名</b>	提携先研究機関からの学生の受け入れ 交流協定留学型の中国人民大学学生受入（1人×6ヶ月）
<b>代表者名</b>	矢野 剛（経済学研究科・准教授）
<b>事業概要</b> (600字程度)	<p>2010年10月に締結された京都大学経済学研究科と中国人民大学経済学院間での学生交換協定に基づき、1名の人民大学の学生（学部4年生）を6ヶ月の短期留学生として経済学研究科で受け入れた。この短期留学生は、経済学研究科の英語教育プログラムである東アジアコースに特別聴講生として在籍し、同コースの多くの科目を履修し単位を取得した。この単位取得の基準は、通常の東アジアコース院生と全く同じものを使い成績評価をおこなった。当該短期留学生は留学中概ね良好な学業成績を修めている。この受入学生の選考基準は、英語教育プログラムを受けるための英語力を必要条件として、人民大学内でのGPAで測られた学業成績アチーブメントにおいて学部4年生集団においてトップクラスに入っていることを確認し選抜した。</p> <p>また京大内で彼らが取得した単位は、人民大学経済学院における単位としても認定されることを人民大側と確認している。留学生本人もこの短期留学が大変有意義であり満足できる体験であったと述べたことも付記したい。</p>
<b>成果の概要</b> (800字程度)	<p>世界展開力事業としては3回目・3年目となる中国人民大学からの交換留学生受入であった。1年目及び2年目に作られた人民大学からの交換留学生受入の具体的なスキーム・体制がよく機能し、国際コーディネータ他関連スタッフの尽力に支えられ事務上の手続きがスムーズにおこなわれるようになったことが第一の成果であった。これは、今後想定されている京大－人民大間でのダブル・ディグリー授与体制の基礎作りともなっている。また、上でも触れたように留学生にとっては京大での教育・京都での生活は大変刺激的であったようで、平成27年度に受け入れた短期留学生は留学期間中にアカミデアでのキャリアを追求するために、中国帰国後の大学院への進学を進路として選択したようであった。またその京大経済学研究科での学業上のパフォーマンスも良好であり、優秀な学生を受け入れた結果であると考えられる。</p> <p>受け入れた京大側の大学院生にとっても、人民大の大学院に進学する予定の4年生の学生と切磋琢磨できたことは、彼らの学業上の向上心を大いに刺激したという点での成果であった。具体的には授業における論文購読・個人研究報告において、互いの論文報告・研究成果報告に積極的にアグレッシブな質問を提起し、それに対するリプライ・ディフェンスを本格的なセミナーさながらに展開できたことは、授業の質の向上に資するところが大きかった。</p> <p>交換留学生が京大内で取得した単位を、人民大学経済学院における単位としても認定されること及びその認定形態、について人民大とあらためて再確認できたことも成果の一つである。</p>